

優しさとは

(原文)

金城 七星 (15 歳)

沖縄県

沖縄県立具志川高等学校

「あなたにとって優しさとは何ですか。」という問いかけに、すぐに答えることはできませんでした。優しさの感じ方や捉え方は、人によって異なります。しかし、優しいことをした方もされた方も心が温かくなることは共通しています。優しさにあふれる社会を作っていくには、「環境への配慮」と「人への心づかい」が大切だと思います。

実践した優しさの中に、「ゴミの分別」と「古紙のリサイクル」があります。これは、「環境への配慮」にあたります。私たちは普段、何気なく生活しています。しかし、その中でゴミは必ず出てきます。これらを分別せずに燃やしたり海へ流したりすると、地球温暖化や海に住んでいる生き物への害に繋がってしまいます。私達は、地球があるから生きることができ、環境が整っているから健康に過ごすことができます。生きていくうえで、大切なことは環境に優しくし、一人一人が今後の地球について考え、行動することだと思います。自分の物ではなくても、ゴミが落ちていたら拾い限りある資源を無駄にしないように、節水や節電を心がける。小さな一歩が、次の時代へと続く地球の環境を整えることに繋がります。私は、その他にもペットボトルのリサイクルやキャップのリサイクルをしています。ペットボトルは、衣服やカバンなどに再利用され、また私たちの生活へ戻ってきます。要らなくなった物が、再び便利な物に生まれ変わることができます。ゴミとして燃やして二酸化炭素を排出するよりも、環境に優しい「再利用」という形をとるほうがより良い未来にしていけると思いました。

そして、もう一つが「人への心づかい」です。親切にすることや誰かのために何かをすることが、「優しさ」だと考える人も多いと思います。では、目に見えることだけが優しさかというところではないと思います。優しさは、目に見えるものと見えないものがあります。目に見える優しさとは、困っている人がいたら助ける、相談に乗ってあげる、手伝いをするなど様々なものがあります。これらは、すぐに優しさを感じることができます。された側は心が温かくなり、

「ありがとう。」

という言葉が自然に出てくると思います。一方で、目に見えない優しさというものもあります。例えば、悪いことをしている人に注意をすることです。子供の頃にいたずらをしたり、ワガママを言ったりして親に叱られたことがあると思います。それはただ怒っているというわけではなく、その人の為を思っていることなのです。本人はその時、自分の為に注意してくれているとは思えないこともあ

ると思います。しかし、後から優しさだったことに気づくことがよくあります。相手のことを思い、行動すること、時には厳しいことを言ったり、そっと遠くから見守ったりすることが優しさなんだと思います。

「環境への配慮」と「人への心づかい」の二つをあげて優しさとは何かについて考えてみました。この二つに共通していることは、自分ではなく、相手や環境のことを心から大切に思って行動することだと思います。口先だけの優しさや、自分の利益になることではなく、相手の立場になって物事を考えることが本当の「優しさ」だと思います。人によって考え方や価値観、感じ方は違いますが、心から思いやる気持ちを大事にして、優しい世界になることを願っています。